

## ウガンダの水を守るための行動 Nakimwero Hadijah (ウガンダ)

世界中のどこでもそうであるように、ウガンダにとって淡水は生命維持、社会経済の発展、環境保全のために不可欠な最重要天然資源です。淡水には限りがあり、また実に傷つきやすいため、自然要因や人的要因による水資源の汚濁、質の低下などが危惧されています。

多くの水源が正しく管理・保守されていないため、ウガンダ国民の大半にとって清潔で安全な水の入手は困難なものです。

農村と都市、それぞれの中心部で水を確保するために、ウガンダ政府は 1995 年に水法、1998 年に水資源規則、そして最終的に 1999 年には国家水政策を施行しました。この国家水政策の内容は、水資源の監視、査定、分配、保護を目的とする水資源管理と戦略、全家庭に清潔で安全な水を十分に届ける国内水供給への取組みを主眼とする水開発と利用です。さらに、ウガンダ国民にとって継続可能で最も有益な方法で水資源を管理するという新しい統合的なアプローチの仕方をおし進めています。

供与団体からの援助を得て、ウガンダ政府は水開発理事会 (DWD) と国有上下水道公社 (NWSC) を通じて農村部で数多くの水衛生プロジェクトを開始し、1999 年には 30% だった農村部への給水レベルを 2015 年までに 100% にすることを最終目標にしています。プロジェクトの内容は、深井戸、浅井戸の掘削、湧水の保護、雨水集水システムの導入や、都市上水道の建設、重力を利用した自然流水施策の作成、水システムの設計や研究への技術援助です。援助の大きなものは、1998～2000 年にムベンデ、キボガ、ムピギの 3 地区で JICA (国際協力事業団 (当時)) が行なった総額 1,300 万米ドルの深井戸採掘と修理のプロジェクトです。その他、ユニセフ、DANIDA (デンマーク国際開発事業団)、EU/SNV (オランダ・ボランティア協会) の支援によるプロジェクトがあります。

DWD の 2003 年 9 月度「水に関する四半期報」による報告：

農村部への水供給率が 2002 年 6 月の 54.8% から年 4% 増加し、翌年同月には 58.5% になった。1992 カ所の水源地と 1315 カ所の浅井戸が建設された。深井戸が 507 カ所掘削され、255 カ所修復された。38 の施策が作成され、216 カ所の公共水道、農村部の小学校に 201 基の雨水貯蔵タンク、91 基の溪谷貯水タンク、100 カ所の自然公共水道が設けられた。

水国土環境省の計画の一環である水部門ジェンダー計画 (WSGS) が、国家レベルで水部門におけるジェンダーの主流化に努めています。平等参加を推進し、男女が共に水資源

の入手や管理をするというものです。ジェンダーの観念が考慮されている水施設や衛生設備が、そうでないものより長持ちしていることから、その運営・管理の長期的効率を高めるには男女が平等に参加する必要があることが認識されるようになりました。水汲みの中心的存在である女性が管理に携わっておらず、適切な保守がなされていないような施設は少なくなりました。しかしその一方、男性が参加することで女性の労働量が減り、その空いた時間に他の経済活動が行なえるという事実もあります。

ジェンダーが水部門の主要な部分を形成しているからと言って、管理者レベルでの計画、施策、実施、この分野での能力を培う努力については、更に改善をしていく必要があることは言うまでもありません。